

## 竹原市

竹原は、江戸時代（1603～1867）から明治時代（1868～1912）に、日本を代表する塩と酒の生産地区として有名になった歴史的な街です。この時代の町の商人の富は、歴史地区にある保存状態の良い商家や倉庫の数に反映されています。

竹原は、広島県中南部の瀬戸内海に面した湾に位置しています。瀬戸内海に近い地域ならではの、豊かな自然と温暖な気候に恵まれています。地元の著名な儒教学者、歴史家、芸術家、詩人である頼山陽（1781-1832）は、夕暮れ時の竹原と瀬戸内海の風景を表す、三紫水明という言葉を作り出しました。

竹原は江戸時代初期に大規模な塩の製造地となりました。その塩は、大阪、江戸（現在の東京）、そして関門海峡（本州と九州を隔てる）を経由して北前船で日本海に沿って北の秋田県と北海道に2つのルートで輸送されました。北前船はまた、この時期に重要な商品でもあった米を持って戻ってきました。

2019年、竹原は北前船の寄港地として日本遺産に指定されました。

塩の生産は主に夏の活動であり、太陽の強い光線の下で海水が蒸発するため、商人は冬の間には労働者の役割を模索し始めました。その結果、多くの人が酒造りを始めました。竹原には老舗の酒蔵が3つあり、いずれも150年以上の歴史があります。また、ニッカウイスキーの創設者である竹鶴政孝（1894-1979）の発祥の地でもあります。